

### 安政南海地震の記録

安政元年 11 月 5 日 (1854 年 12 月 24 日) に大地震が起こり、四国各地で甚大な被害が発生しました。先人が残した記録には、地震や津波時の人々の様子、被害の状況などが記されています。徳島県海陽町と愛媛県西条市の例をお伝えします。

#### ■浅川の安政南海地震の記録 (徳島県海陽町)

海陽町浅川の千光寺の扁額「大地震津浪記」には、安政南海地震の様子が記されています。大地震津浪記は、多くの人が目にしやすいように御崎神社の石碑にも刻まれています。これによると、11 月 5 日申刻 (午後 4 時頃) より未曾有の大地震が起こり、その後津波が襲来して、天満宮、大歳神社、御崎神社などの寺社を残して浦村の人家土蔵は残らず流失したそうです。津波の高さは 2~3 丈 (6~9m) 余で、浅川の観音堂石段 25 段まで到達したと記録されています。観音堂の石段には、安政南海地震から 84 年後の昭和 13 年 (1938) に「安政南海地震津波襲来地点石標」が建立されました。標高約 6m の位置にあります。<猪井達雄、澤田健吉、村上仁士「徳島の地震津波－歴史資料から－」1982 年、浅川観音堂石段の標識など>



#### ■東予の安政南海地震の記録 (愛媛県西条市)

11 月 5 日申刻に起こった安政南海地震により、大新田村 (現西条市) では海岸堤防が決壊し、人家が倒壊しました。海岸堤防の復旧工事は、古田村、壬生川村、大新田村の庄屋らが中心となって、積み石は今治藩領比岐島から取り寄せ、12 月から 1 年余をかけて修復しました。総工費は玄米 550 俵分で、これは大新田村の年貢の約 4 年分に相当したといえます。また、小松町 (現西条市) 高鴨神社の神主鴨重忠の「御神用並公私向之日記」には、11 月 5 日七ッ時 (午後 4 時頃) 大地震が起こり、夜も 5 度地震があり、小松町の恵比須宮の鳥居が倒れ、玉之江村南春宮の鳥居もなびき、その後も余震が約 3 ヶ月間続いたことなどが記されています。<壬生川郷土史研究委員会編「壬生川郷土史」2009 年、小松町誌編さん委員会編「小松町誌」1992 年など>

